

第3回自然環境保全基礎調査

# 植 生 調 査 報 告 書

( 埼 玉 県 )

1 9 8 7

環 境 庁



# 目 次

1. 調 査 概 要 .....	1
2. 調査対象地域図 .....	3
3. 埼玉県 of 植生概説 .....	4
4. 凡 例 解 説 .....	31
5. 植 生 調 査 表 .....	55
6. 資 料 リ ス ト .....	171
7. 調査担当者名簿 .....	172



## 1. 調 査 概 要

調査地域は埼玉県北部、北緯 36°以北、東経 139°以東、5 万分の 1 地形図では寄居、熊谷、高崎、深谷、古河、鴻巣、水海道にわたる。地形的には山地・丘陵・台地・低地からなり、西に高く東に低い傾向が認められる。また、面積的には低地が最も広い。山地は上武山地東部、及び外秩父山地の北部地域で、標高 1037.7m の城峯山を最高峯とし、全般に標高 300m~700m の山地帯下部からなる。則ち、標高約 700m 以上の冷温帯林は僅かで、大部分は二次林としてのミズナラ・クリ群落であって、局所的にカラマツ植林が認められる。一方、中間温帯林は広範囲に分布する。主体はコナラ・クリ群落、アカマツ・ヤマツツジ群落（ヤマツツジ・アカマツ群集）、スギ・ヒノキ植林である。また、尾根筋にモミ・シキミ群集、山腹や河谷沿いにケヤキ・イロハモミジ群集、沢沿いにフサザクラ群団（オングルミ・アブラチャン群落を含む）、露岩地帯にはシラカン群集が局所的に成立している。なお、暖温帯上部にはアラカン群落も認められる。丘陵地域は比較的狭く、標高約 200m~400m の秩父盆地内にある尾田蒔丘陵と吉田丘陵の一部、標高約 40m~200m の比企丘陵が主な地域であり、両丘陵とも主にコナラ・クリ群落とアカマツ・ヤマツツジ群落（ヤマツツジ・アカマツ群集）、スギ・ヒノキ植林からなる。全般的に前者にはコナラ・クリ群落、後者はアカマツ・ヤマツツジ群落（ヤマツツジ・アカマツ群集）がそれぞれ優占する傾向が強い。八高線に沿って北から南へ配列する本庄台地、榎引台地・江南台地・東松山台地、さらにほぼ中央部に位置する騎西台地群、東部の宝珠花の各台地上は広く畑地、桑畑、落葉果樹園として利用されている。江南台地ではアカマツ・ヤマツツジ群落（ヤマツツジ・アカマツ群集）、東松山台地では市街地の占める面積が広い。また、台地から低地にかけてクヌギ・コナラ群集が点在している。近年、この地域は市街化がすすみ、工場地帯の拡大が目立っている。最も広い面積を占める低地のうち利根川、荒川による扇状地地帯に位置する妻沼、熊谷の両低地は水田・桑畑・畑地が不規則に分布し、熊谷低地においては市街地の占める割合が高い。また、自然堤防地帯の加須・荒川・中川の各低地は水田としての耕作率が高く、自然堤防上は主に住宅地や畑地、落葉果樹園として利用されている。これら低地においてさえ造成地や公共・運輸流通・供給処理等の各施設の増大が著しい。利根川・荒川・江戸川・神流川など主な河川沿いにはオギ群集とヨシクラスが発達し、局所的にクヌギ・コナラ群集やニセアカシア植林、及び小面積であるがタチヤナギとアカメヤナギを中核とした河辺ヤナギ低木林の粗林が認められる。近年、河川敷はゴルフ場や野球場など運動競技施設に広く転用されている。

一方、本調査地域の気候条件は下記のとおりである。年平均気温は 13.8℃（神泉）~14.6℃（羽生）、垂直的な温量指数の範囲は暖かさの指数 178.4 度（菖蒲）~ 70.5 度（城峯山頂上）、寒さの指数 - 2.4 度（羽生）~ - 24.1 度（城峯山頂上）である。また、年間総降水

量は 1166mm (栗橋) ~ 1572mm (槻川), 平均 1333mm であって, 県内でも少い地域にあたる (統計年数は 1941 年 ~ 1970 年)。

なお, 植生調査にあたっては各群落の最小面積を求め, 方形枠法によった。階層は群落及び林分の発達段階に応じて高木層・亜高木層・第 1 低木層・第 2 低木層・草本層・ツル植物に分けた。優占度は各階層ごとに被度を求め, それをもとに第 1 低木層以上の各層は胸高断面積により各種ごとに被度を算出し, 他の各層はそれぞれ目算によった。優占度は Braun-Blanquet 法により, 群度は明白なものについてのみ記入した。植生調査表は現地調査及び既存資料によった。また, 植生図は昭和 50 年撮影の空中写真の判読, 及び昭和 44 年 ~ 54 年の国土地理院発行の土地利用図から基図を作成し, 現地調査により修正を行った。

## 2. 埼玉県調査対象地域図

